（郵信省認可）　（本號六面）　明治二十三年三月十四日　（定價金二錢）

時事新報

時事新報定價
時事新報は一年三百六十五日一日も休刊せず其代價郵送廣告料は左の如し
一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓
〇時事新報社より直接に郵便にて送付するものは一箇月十五錢の郵送料を申受く

時事新報廣告料前金

一行五號活字廿四字詰	一日限	二日以上	七日以上
一行ニ付	十二錢	十一錢	十錢五厘

月曜日幷に大祭祝日の翌日等他新聞紙の休刊日に限り時事新報配達の求めに應ず此場合には新報代價一箇月前金八錢にして地方に郵送する分は此外に貼用する郵便印紙の代價を申受く可し

時事新報は一年三百六十五日一日も休刊無し

第二千五百九十三號　金曜日
明治廿三年三月十四日
舊暦庚寅正月廿四日（甲、午）
日出午前五時五十五分　入午後六時十六分
月出午後一零時四十五分　入午前十時二十八分
滿潮午後十時零二十分
（西暦一千八百九十年）

時事新報

富國强兵

武を以て國を立つるの風は次第〳〵に衰へて商業立國の顔を生ずるに至りたるは今の世界の大勢なり蓋し往時の武事なるものは至て簡單なる者にして勝負は武器の精粗に關せず腕力の逞しくして勇氣に富めば竹槍席旗を以て天下を威服し戰勝者として大國を領するの例珍らしからず例へば彼のサクソン人が徒手を以て英國を取りノルマン人が之れに代りて双之を押領する等戰鬪の事に勇なるものは空拳を以て大功を立つることを得たりしかば當時社會一切の人事は孰れも道を武事に讓りて商賈も學問も農工業も每度武事に蹂躪されて之れに甘んじたることなれども近時蒸氣電氣の發明あり續て破裂藥等の工夫ありて之を兵器に適用するに及んでは兵の利鋭必ずしも勇氣腕力のみに存せず國富みて多くの軍艦を備へ碼臺壘堡を極めて海陸の兵には絶えず新改良の銃砲を給し敵に一門の大砲を增せば我れは十門を增加すと云ふ斯かる比例に進むときは職はずして既に其勝を卜すべく今の軍國の間柄は云はゞ軍費の多寡較にして大體統計上よりして其兵の精粗强弱を判斷することを得る程なり左れば武備の大切なるは古今相異ならずと雖ども相異なるものは其武備の費用にして今は昔と事換はり一般の軍艦を製するにも幾十幾百萬圓を要するが故に武備云々の議は先だつて之を辨ずる其費用の出處に着目することは爲れり即ち文明各國に於て特に商業を重んじて武事の上に位せしむる所以にして例へば近年英國が東洋艦隊の數を增して幾多の軍艦を印度支那の近海に備へ置くも徒に武威を張るに非ず唯その武を利用して商賈を保護するが爲めのみ又昨今同國中に國防論を唱ふる者多く現政府も其議を容れて大に軍艦を增加するの豫算なれども目的とする所は倫敦、グラスゴー、リヴアプール及びエチンバラを始めとして英國の諸商港を防禦するに在りと云へり扨て又近來米國にても軍備擴張の說あれども其說の要點を叩けば矢張り商賈を保護するに外あらず蓋し近年米國にては商業の發達著しく東部海岸の大都府は大厦高屋海に面して軒々相接すれども海防は誠に薄弱にして一朝事あるの日に當り之を防禦するの備なく萬一敵の砲丸の爲めに一商館を破損さるゝことあるも尙且つ軍艦一二艘を製する程の損失を生ずべきが故に此等の商館にては戰時の保險料として適んで其海防費を醵出せんとするものなれば是れ眞に商賈其物の重きに因りて始めて起りたる軍備論と云ふべきのみ又獨佛兩國の如きは國交際上一種特別の關係ありて互に武を運んせざる可らざるの勢を成したれども獨逸が聯邦統一以來大に商業を奬勵するは人の能く知る所なり佛國も亦近時その商工を發育するの道を講じ公論の向ふ所ブーランセー將軍の如き者すら口を開けば必ず先づ商工奬勵の要務を說くに至れり左れば今の文明各國は商業立國の方向を取らざる者なく昔は武事の都合を因りて每度國の商業を蹂躪したることなれども今は商業を保護するが爲めに武備を修むるの都合をして武事商業古今その主客の位地を轉じて商業に重きを加へさる者即ち今の文明世界の大勢なりと云ふべきなり

從來我が日本國にては每度國防論の喧しきことなれども論者の着眼漠然として曾て國富の如何を察せず試に統計表を按じて前十年間に我が國富何程を加へたれば後十年間に何程の軍備を增さゝる可らずなど申す論鋒は從來餘り見受ざる所なれども今後國防の事を論ずる者は先づ國富は着眼せざる可らず國富は年來依然たるに徒らに國防を嚴にするは貯金の高の增さずして徒に弗箱を堅固にするが如く其弗箱の代價を積て之を箱の中の金に比せば尋常保險料は幾倍して利息勘定の上得失相償はざるの奇相なしとも云ふ可らず我輩は前號に陳述せし如く英國政府は一昨年中國防の說を主張して海軍大臣ヘミルトン卿は向ふ數年間を期し軍艦七十艘を新製するの議案を國會議院に提出し遂に其可決を得たりしが今軍艦一艘を假りに十五萬磅即ち凡そ我が百萬圓と見積れば七十艘は千零五十萬磅即ち我が七千萬圓ばかりにして數年間の軍艦製造費が殆んど我が政府の歲入に匹敵せんとする程なれども又一方より英國の國富を見れば千八百八十五年の計算に百億三千七百萬磅餘にして是れより前十年間に十四億八千九百萬磅を增したりと云へば是より後にも同比例を以て增すとあるべく國富が十年間に於て十幾億磅を加ふるに比すれば向ふ數年間に於て一千萬磅位の弗箱即ち軍備を作るは高の知れたる割合にして一見すれば莫大の軍備金なるが如くなれども國富と相比較して考ふれば至て輕少の者たるを知る可きなり近年或る哲學者の說に世に軍備金ほど馬鹿〳〵しき者あければ各國共歇して之を廢し國交際上の爭は萬國公法に訴へて穩に裁判を仰ぶ可し云々と云へども是れは事實を行はる可きに非ず然る以上は其馬鹿〳〵しきことを爲さゝる可らざれども其軍備の擴張は常に其國富の增加に續て起るの順序に因らざる可らず即ち英國の國防論の如きは此順序に因りて起りたる者にして我輩は今後我が國防を論ずる者が先づ國富の點に注目して所謂の漠然に陷らざらんみと偏に希望に堪へざるなり

雜報

○海軍擴張案　目下海軍部内に海軍擴張論の盛なるみとは屢々本紙上に記せし所なるが今日我海軍にては軍艦の數減に少きにも關らず之れが事務を取る所の本省には數多の事務官あり乍少からざる入費を要するみとあり軍艦を增加するの必要は目前に感じながら新營り之れに對して支出すべき金もなく此僅にして莅萬日を過ぐる時は迚も海軍の擴張は見るべきにあらず就ては大に本省の事務を減じ其減じ得たる金を以て軍艦製造の費途に充つべしとの說ありと云へり

○會計決算　會計檢査院にては目下明治十八年度決算の調製中なりと

○衛生局　内務省衛生局は來る四月上旬廳局と爲し同事務を縣治局へ合併するの噂あり

○徵兵取扱の義に付何指令　徵兵取扱の義に付德島縣より陸軍省へ二月十八日附を以て舊徵兵令第十八條第二項に依り徵兵猶豫を爲したるもの其事故止み本年徵集を應ずべき者再び官公立小學校教員となる者は徵兵令第十一條第三項に依り六週間現役に服せしむる哉又前項果して令第十一條第三項に依るものとせば其年徵令抽籤現役當籤の後入營前再び教官となるもの〳〵如きも尙ほ令第十一條第三項に依らしむる哉との伺ひに對し第一項は御意見の通、第二項は現役當籤後に係る者は令第十一條第三項に依るの限に在らずと去る十一日指令ありしと

○金庫局員　大藏省金庫局は本月限り事務を日本銀行へ引渡す筈にて同局員は昨今頻りに調査中なれど悉皆の結了は多分來る四月中旬に及ぶならんと同局廢止の上は金庫課を總務局中へ置き屬官五十餘名の内十四五名は日本銀行へ事務と共に引渡し其餘は會計局と新設の金庫課へ聽任せしめ中には非職を命ぜらるゝ向きもあるよし既に辭職して日本銀行へ赴きたるも四五名ありといふ

○大演習の見物人　今度濃尾勢地方に於て陸海軍大演習の執行あるに付東京の紳士豪商は右見物旁々伊勢大廟の御蔭參りに出掛けんと夫々準備をなすも少なからず中には既に名古屋へ旅館の手當を申遣したる向もある由にて最早同地の旅舍は大抵約定濟とありたりと云ふ

○横濱鎭港　に要する燈明船二艘を去る十一日燈臺局より鎭港掛に引渡し同日鎭港用潛水器の試驗を行ひ其他大抵整頓したれば本月下旬より五千八百呎の水堤を北神奈川砲臺より鎭く筈なりと

○水雷火彈　呉佐世保の兩鎭守府へ備ふる水雷火彈は目下芝金杉の田中工場にて取急ぎ製造中なりと

○朝鮮京城近報　（一月廿六日發）

大院君の一言一行は世人の注視する所なり君既に七十有餘の老齡に及ぶと雖ども智略に富めるは掩ふ可からざる事實なりして其勇壯活潑の氣象は人をして驚かし其德は庶民をして服從せしめ君の一言以て八道風靡せざるなし君は老年を口實として常に世事に關せざる樣子なれども國家を憂ふるの念深し抑も今回外國人放逐强訴事件の起るや諸說紛々たる中にも世人は君を首謀者の一人に指名したれども通信者は聞く所ありて其首謀者は豫想外の人物なるべしとの旨を前報したりしが今回通信者は親しく君に面會して問答したれば其大意を記すに先ざち右放逐事件の起りたる前後、君の言行を開くに君は同事件に關し日本人を向ひて曰く足下等は過般來甚だ「足下等は過般來甚だ」と驚かしめて心配ならん」と驚かしめて心配ならん」と驚かしめて心配ならん